

# 第1章 総論

- 1 はじめに
  - (1) 計画策定の趣旨
  - (2) 計画の位置付け
  - (3) 計画の期間
- 2 教育を取り巻く社会の動向
- 3 上尾市における教育の課題
- 4 上尾市における教育の基本的な考え方
  - (1) 基本理念
  - (2) 基本方針
  - (3) 基本目標

# 第1章 総論

## 1 はじめに

### (1) 計画策定の趣旨

近年、急速に進む社会の少子高齢化、ICT（情報通信技術）の発達などに見られる高度情報化、さらには社会・経済のグローバル化、環境問題の深刻化などにより社会全体が大きく変化し、また地域では、地域コミュニティの希薄化が進行しています。

一方、教育分野においては、子どもたちの学ぶ意欲や学力・体力の低下、問題行動、さらには、社会全体における規範意識や倫理観の低下など、解決すべき多くの課題が指摘されています。

こうした中、平成18年12月、制定から約60年を経て教育基本法が改正されました。この改正教育基本法では、教育を取り巻く様々な状況の変化を踏まえた上で、新しい時代にふさわしい教育の実現のため、「人格の完成」や「個人の尊厳」などの普遍的な理念とともに、新たに達成すべき教育の目標を掲げるなど新しい時代の教育の理念が明確に示されました。

この改正教育基本法に基づき、国は教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育振興基本計画を策定し、また、地方公共団体においては、地域の実情に応じた教育振興基本計画を定めるよう努めなければならないと規定されました。

上尾市教育委員会では、これまでも「第4次上尾市総合計画」に基づく総合的かつ計画的なまちづくりを進める中で、教育行政に関する施策を展開してきましたが、改正教育基本法の趣旨に鑑み、また、「第5次上尾市総合計画」を踏まえながら、市の教育が目指す理念としては、おおむね10年先を見通し、教育行政に関して中長期的視点から今後5年間に取り組むべき施策の体系をより明確にし、それらをさらに着実に推進していくために、改正教育基本法に基づく教育振興の施策に関する基本的な計画として、本計画を定めるものです。

## (2) 計画の位置付け

本計画は、教育基本法第17条第2項に基づき、平成20年7月に策定された国の教育振興基本計画（平成20年度から平成24年度）及び平成21年2月に策定された埼玉県教育振興基本計画（平成21年度から平成25年度）を参考にし、市の実情に応じた教育の振興のための施策に関して総合的かつ計画的な推進を図るために定める基本的な計画です。

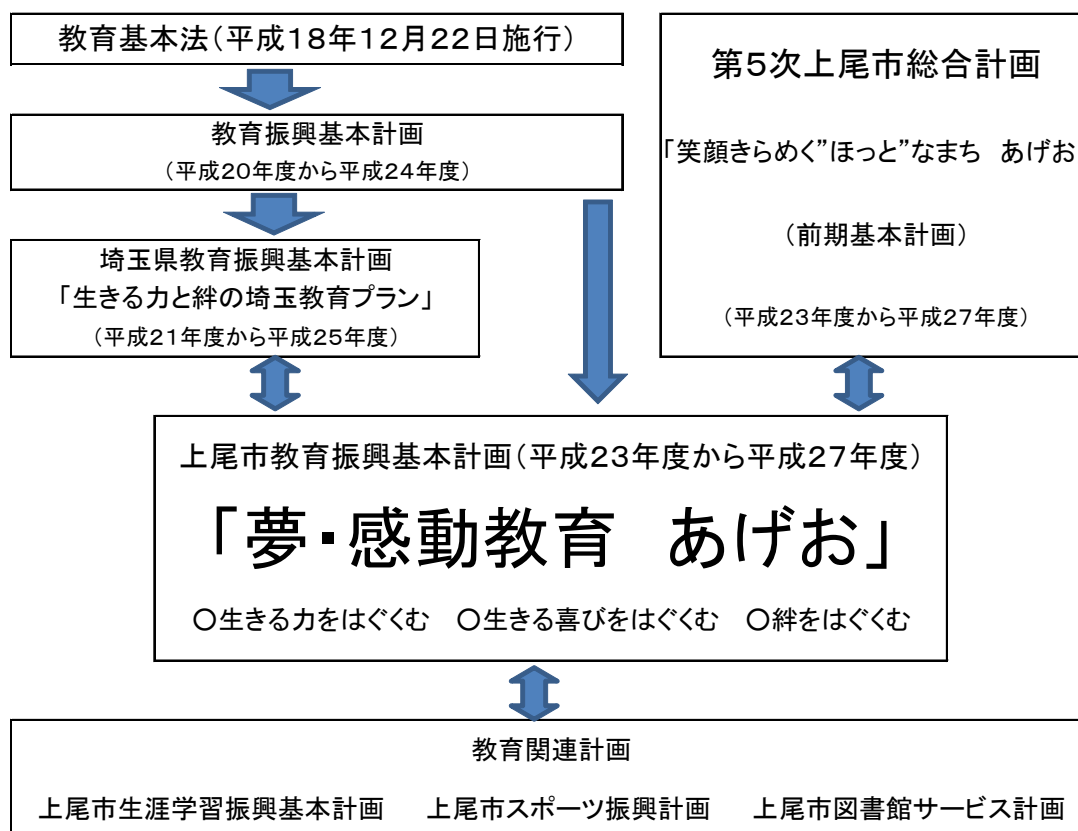
また、本計画は「第5次上尾市総合計画」に示す上尾市の将来都市像「笑顔きらめく“ほっと”なまち あげお」を実現するための教育分野における計画であり、本市の教育関連計画においては、最上位に位置付けられます。

上尾市教育委員会は、これに基づき年度ごとに重点施策を策定し、事業に取り組みます。

## (3) 計画の期間

本計画は、平成23年度を初年度とする平成27年度までの5年間の計画とします。

### <計画の位置付け>



## 2 教育を取り巻く社会の動向

教育を取り巻く社会環境は、時代とともに大きく変貌を続けていますが、国や県の教育振興基本計画などを参考にすると、主な動向として次のようなものがあります。

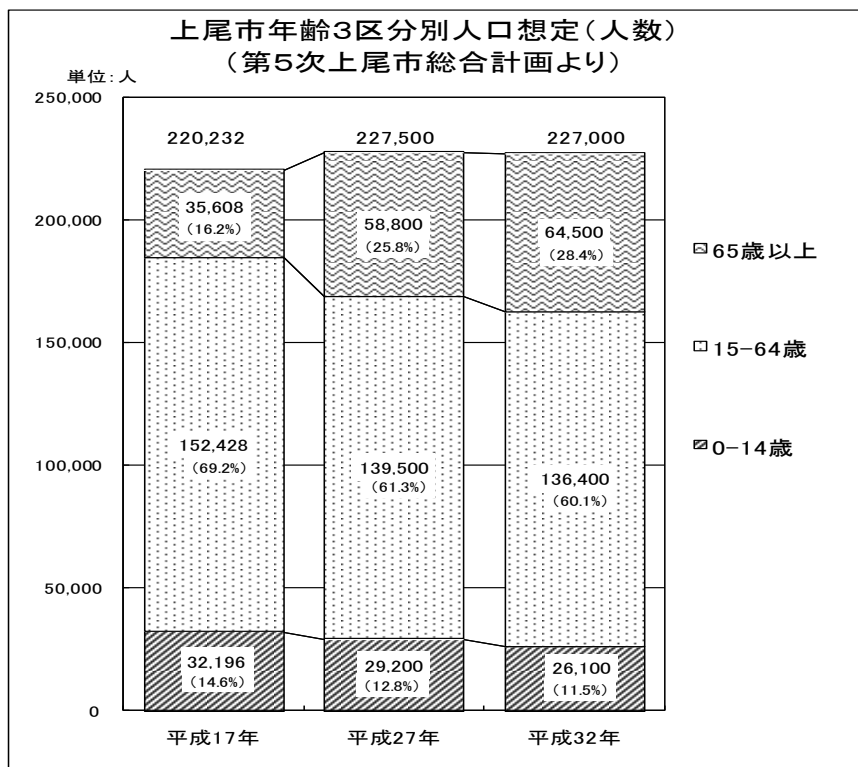
### ◆少子高齢化と人口減少社会

我が国においては、世界に例を見ない速さで少子高齢化が進展しており、それに伴い全国の人口は、平成17年には前年比で減少に転じており、県でも数年内に人口減少に転じることが予想されています。

このような中「第5次上尾市総合計画」においても、0歳から14歳以下の総人口に占める割合は、平成17年には14.6%であったものが、平成27年には12.8%、平成32年には11.5%にまで減少する一方、65歳以上の割合は、平成17年の16.2%から平成27年には25.8%、平成32年には28.4%にまで増加することが想定されています。

また、本市の現在の人口については、勢いは緩やかになったものの、依然として増加していますが、平成27年前後をピークに減少に転ずることが予想されています。

このように、本市においても少子高齢化が今後も進み、さらに人口減少の到来が予想される中、世代や性別を問わず、すべての人が生涯にわたって様々な分野でそれぞれの役割や能力を発揮することが求められています。



#### ◆高度情報化

広範な分野で技術革新が進展する中、ICTの普及と発達が飛躍的に進み、社会の情報化が急展開し、経済の仕組みや社会活動のスタイルが大きく変化しています。

また、ICTの活用により、情報・知識の共有化をはじめ、人々のコミュニケーションの活発化などが期待される一方で、これらを利用した犯罪が多発するなど、新たな問題が発生しています。

これからの社会を支える人材の育成が必要であるとともに、情報セキュリティや情報モラルの確保などの対応が必要となっています。

#### ◆グローバル化

社会・経済のグローバル化に伴い、国際的な視野を持ち、世界に通用する人材を育成し、異文化との相互交流・相互理解を深め、共生することが求められています。

また、外国籍の市民に対しては、子どもたちの就学支援をはじめとする幅広い分野での対応が必要となっています。

#### ◆地球環境・資源問題の深刻化

地球環境保全への意識が高まる中、地球規模での持続可能な社会の構築を目指した取組が求められています。

また、食糧・エネルギー問題など人類全体で取り組まなければならない問題が深刻化しています。

本市においても、「上尾市環境基本計画」の中で、環境への負荷を最低限に抑え、美しい地球と安全で快適な環境を将来へ引き継いでいくことが、今実践しなければならない大切なことであるとしているところであり、そのための具体的な取組が必要となっています。

#### ◆地方分権の進展

「地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律」が施行されて以来、国と地方との関係は対等・協力の関係になり、地方には自立的向上、自律的な運営体制づくりが求められています。

今後、地方分権がさらに進むことが見込まれる中で、これからの時代の地域を支え、活性化させるのは、その地域の人々の総合的な力であり、地域づくりの基本となるのは「人づくり」です。

このため、教育分野においては、より現場に近い地方公共団体がそれぞれの地域の実情に応じた教育を計画・実施し、教育の質を高める取組に主体性を発

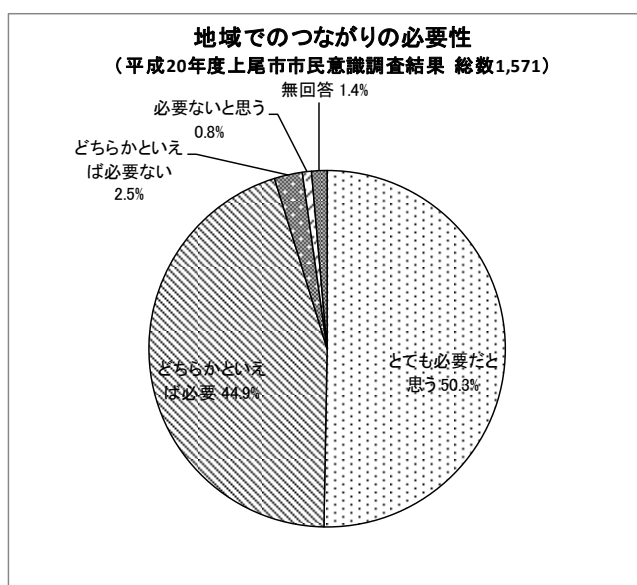
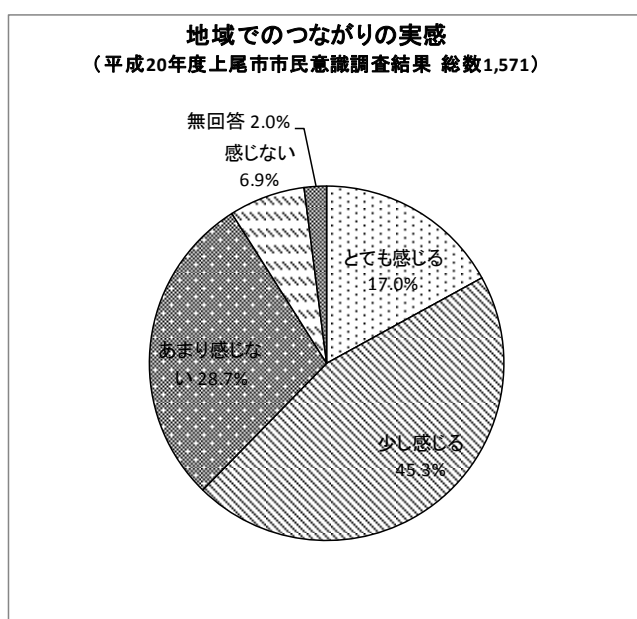
揮することが求められています。

#### ◆地域コミュニティの希薄化

地域との結び付きや人間関係の希薄化など、市民を取り巻く生活環境は大きく変化してきています。

一方で、市民意識調査によると、地域でのつながりについては95%を超える人がその必要性を認識しています。

社会全体で教育に取り組むために、社会における人と人とのつながりを重視し、コミュニティを再構築していくことが必要となっています。



### 3 上尾市における教育の課題

教育を取り巻く社会の動向を背景に、本市における教育の課題は、次に掲げる7つに大きく整理することができます。

#### ◆確かな学力と自立する力について

本市では、他市に先駆け小学校1・2年生及び中学校1年生を対象に30人程度学級を導入し、きめ細かな教育に取り組んできました。

本市児童生徒の全国学力・学習状況調査、埼玉県学習状況調査及び上尾市立小・中学校学力調査などの結果は、一部に課題は見られるものの、全体的には全国や県の標準値を上回っています。

今後も、子どもたち一人一人の「生きる力」を支える確かな学力の定着のために、家庭との連携を図りながら、成果と課題を明確化・共有化し、指導方法の工夫・改善を進める必要があります。

特に、子どもたちを取り巻く社会や環境が激変する中、そうした変化に主体的に対応し、21世紀を生き抜く力を育成する必要があります。

一方、子どもたちが、将来の生き方について、目的意識を持ち主体的に選択できるようにするために、教育活動全体を通じ、発達段階に応じた進路指導・キャリア教育が求められています。

さらに、ノーマライゼーションの理念に基づいた、一人一人のニーズに応じた適切な支援が求められています。

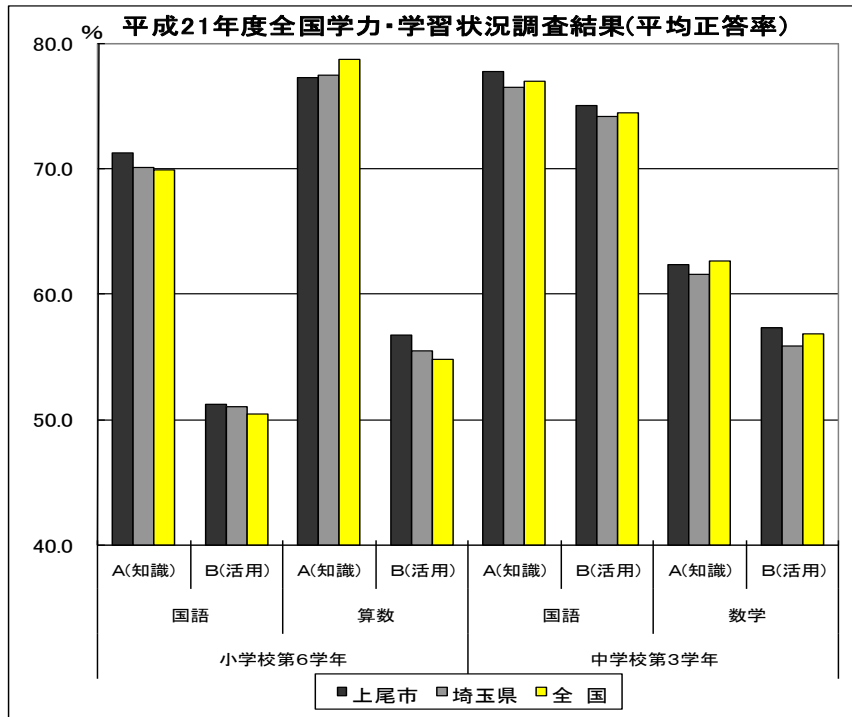
また、幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で重要なものです。このことから幼稚園・保育所などと小学校が連携した幼児教育の推進が求められています。

#### 「生きる力」とは

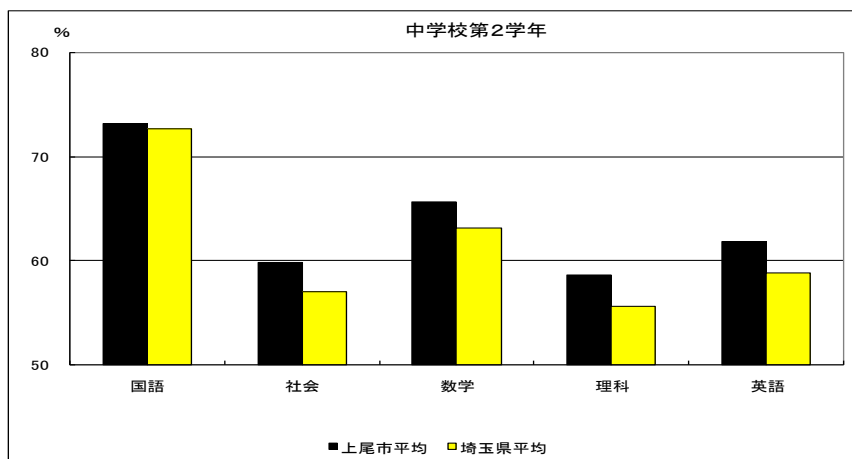
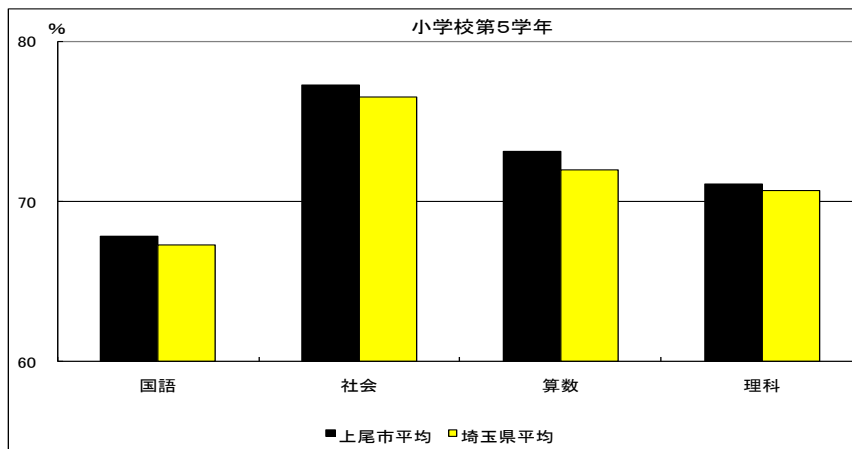
——— 知・徳・体のバランスのとれた力 ———

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切です。

- 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力
  - 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
  - たくましく生きるための健康や体力 など
- (文部科学省パンフレット「生きる力・学習指導要領がわかります」より)



平成22年度埼玉県学習状況調査結果(平均正答率)

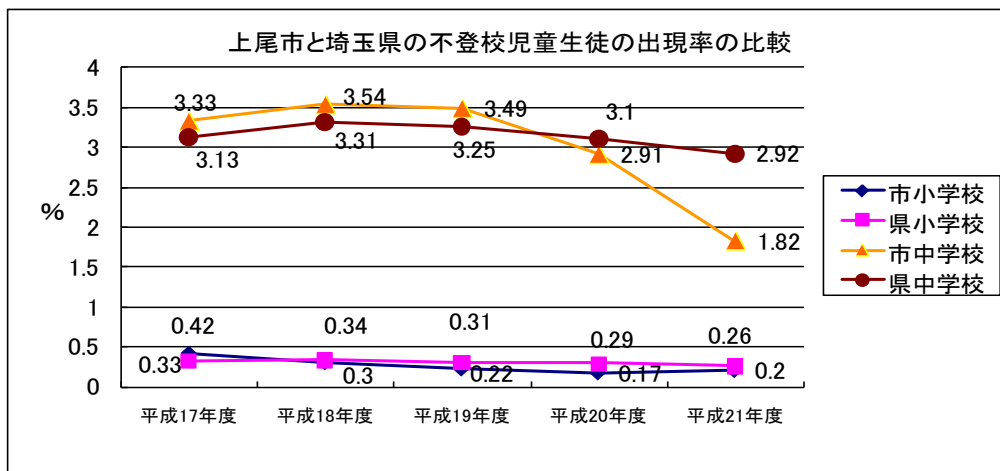




### ◆心身の健康について

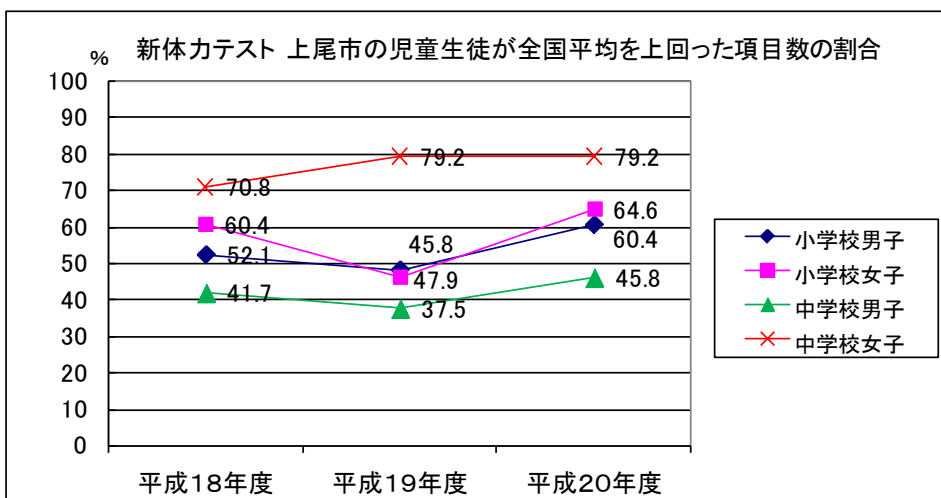
子どもたちの規範意識や人間関係の希薄化が課題となっている中、基本的な生活習慣を身に付けさせ、公共の精神を尊び、一人一人の人権を尊重し、他者を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」が求められています。

また、携帯電話やインターネットの利用をきっかけとした「ネットいじめ」などの新たな問題が発生している状況も踏まえ、いじめや不登校の解消、非行・問題行動の防止に向けた取組が必要となっています。



一方、子どもたちの心の健康、アレルギー疾患への対応、生活習慣病や薬物乱用、食生活の乱れなど多様化する健康課題への対応が求められています。

さらに、生活環境の変化に伴い、子どもたちの体力低下傾向が見られ、その改善が課題となっています。



### ◆教育環境について

教員の大量退職・大量採用時代を迎え、教員の人材育成を確実にを行い、学校の教育力を維持・向上させることが求められています。

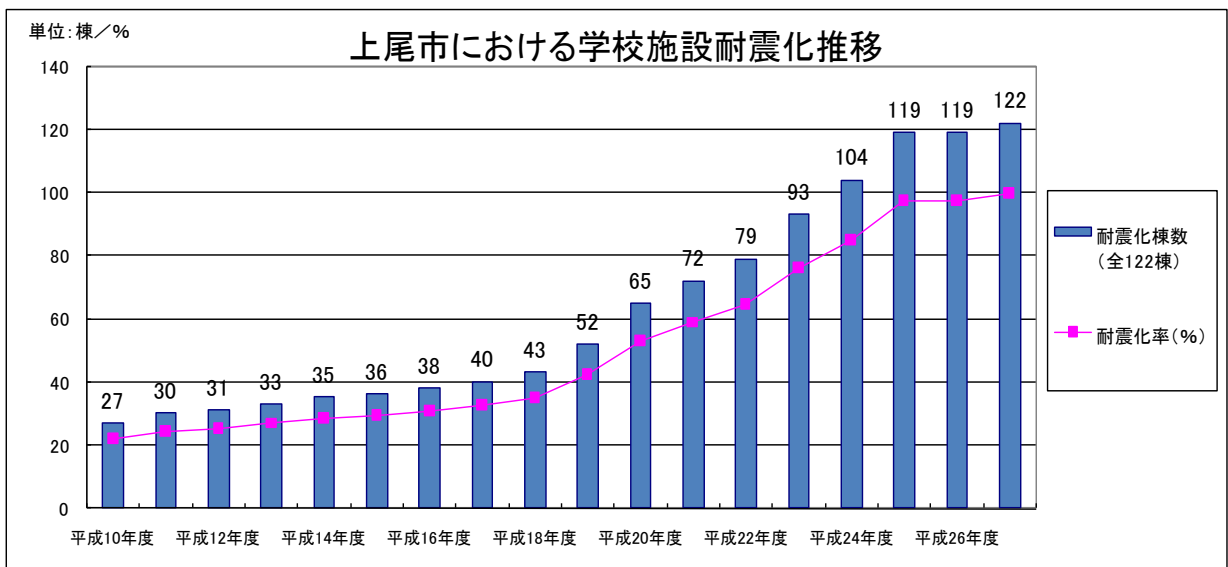
また、学校運営の改善や諸課題を解決するために、質の高い学校評価の実施・公表、校内の組織力の強化、関係機関との連携などが必要です。

さらに、社会の情報化など時代の変化に伴う様々な教育課題に対応するため、学校におけるICTなどの教育環境を整備・充実するとともに、学校教育を直接担う教職員の資質・能力の向上を図ることが必要です。

一方、学校施設の耐震化など、子どもたちを災害・事故・犯罪から守るため、防災・防犯対策の着実な推進・充実による安心・安全な学校づくりが必要となっています。

このほか、地域の実態に応じた学校規模の適正化を図り、地域の特性を生かした教育活動を展開することが課題となっています。

また、経済的理由により就学が困難な家庭に対しては、その負担を軽減するための支援を行うことが求められています。



### ◆家庭や地域の教育について

地域コミュニティの希薄化などにより、家庭・地域の教育力の低下が指摘されています。

本市では、学校における学習活動、安全確保、環境整備などについて、ボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織である学校応援団がすべての学校で組織され、「地域の子どもは地域で育てる」取組を推進しています。

未来を担う子どもたちの健全育成のために、社会全体で教育に取り組む気運を高め、学校・家庭・地域が一体となって教育を推進する必要があります。

そのためには、学校応援団やPTA活動などに対する支援を行う必要があります。

また、子どもの教育について第一義的な責任を負う「家庭教育」の重要性を再認識し、保護者の自主性を尊重しつつ、学習機会や情報の提供などの支援を行う必要があります。

#### ◆生涯学習について

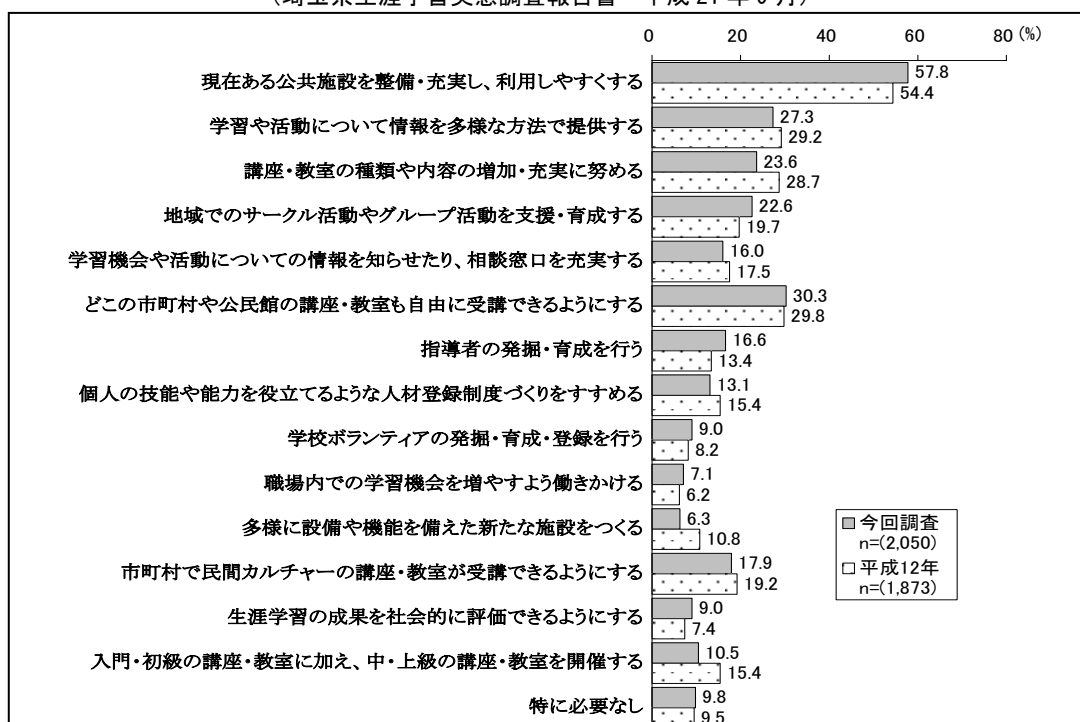
「上尾市生涯学習振興基本計画」を策定し、市民の生涯学習活動を支援していくため、推進体制の整備や学習機会の提供、公民館の整備などについての施策を推進しています。

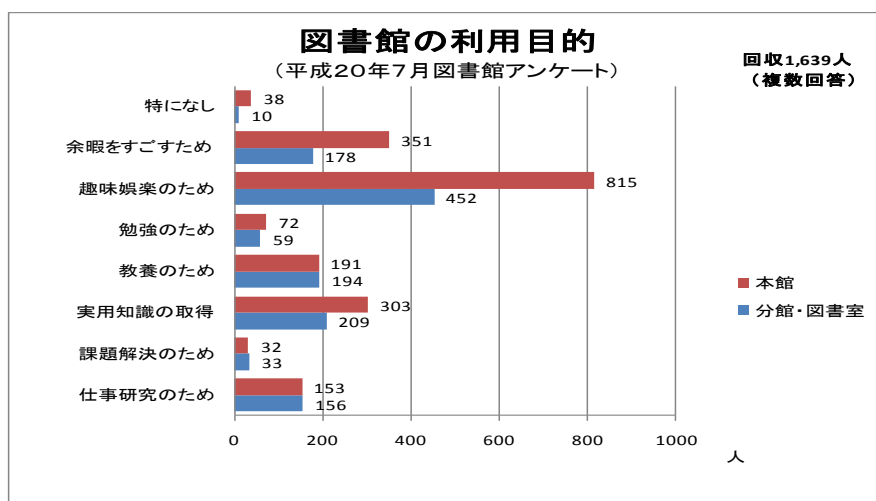
市内にある6館の公民館を生涯学習を実践する中心的な教育機関として位置付け、市民の生涯学習活動の場として、あるいは生涯学習情報の提供の場として運営しています。今後は、公民館活動や提供する情報を充実し、さらに学んだ成果の活用を図ることが必要です。

また、図書館では「上尾市図書館サービス計画」に基づいて、多様化する市民ニーズに応えるサービスを行うとともに、地域を支える情報拠点としての役割も求められています。

生涯学習を進めていくために必要なこと（複数回答）

（埼玉県生涯学習実態調査報告書 平成21年9月）





#### ◆文化の創造と文化財保護について

文化芸術については、自主的かつ主体的に、地域特性に応じた施策が求められており、市民と協働して、地域の文化芸術活動への支援を行う必要があります。

また、新たな文化芸術分野の創造を含めた支援の展開も必要です。

文化財保護については、文化財の指定や登録を進め、文化財の保存・活用を進めていく必要があります。特に埋蔵文化財の調査体制の維持・充実や、無形民俗文化財の継承、市の所有する文化財の保存・活用が課題となっています。

このほか、歴史資料の調査で収集した資料の整理や活用が求められています。

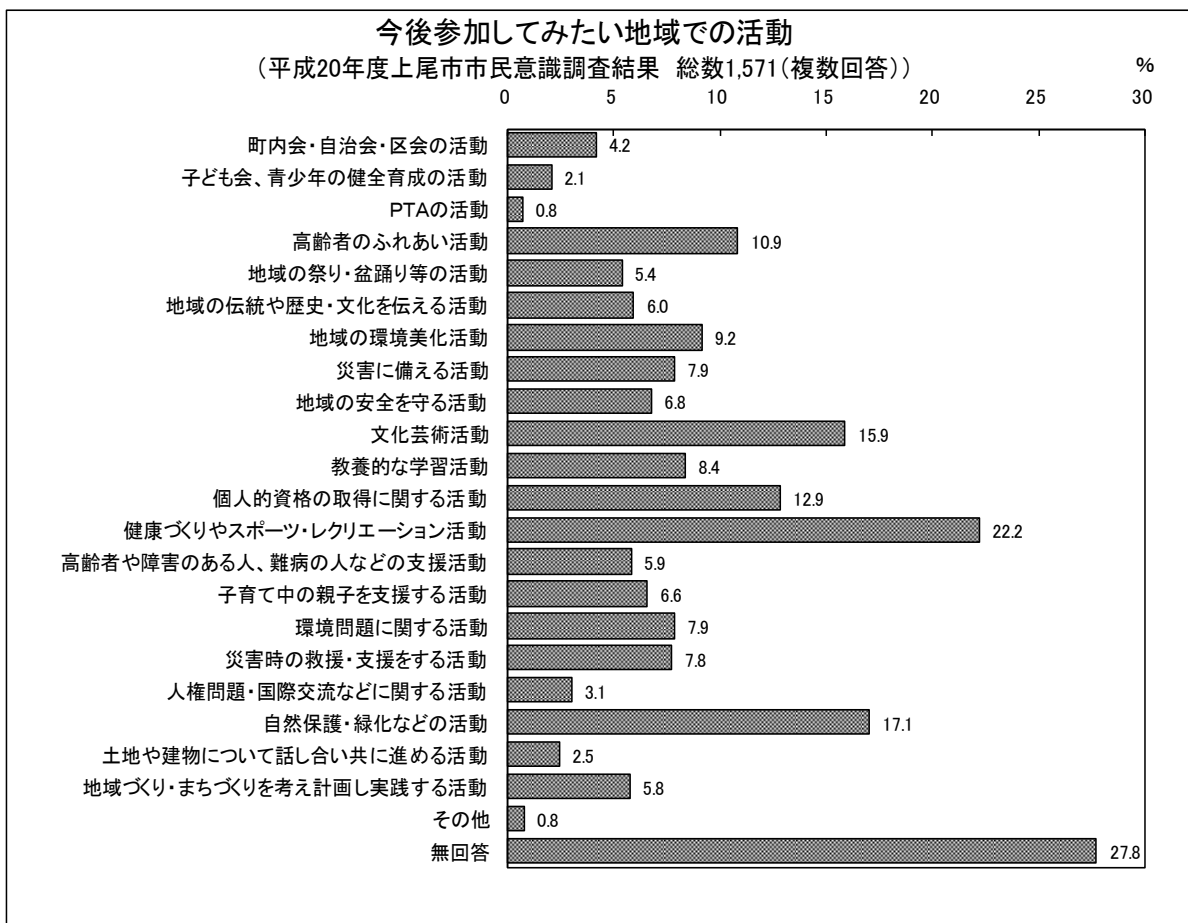
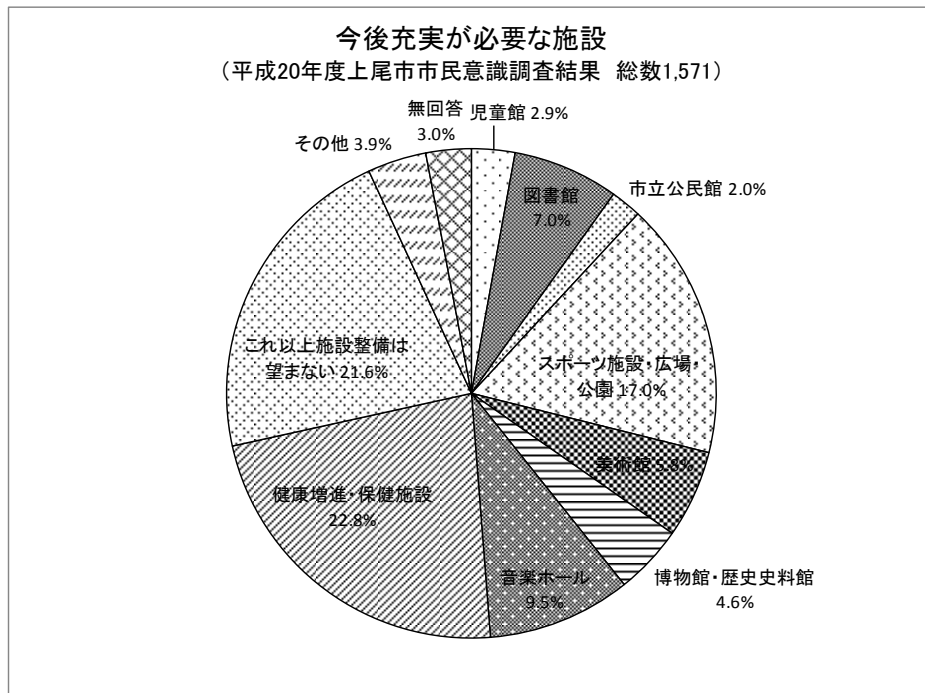
#### ◆スポーツ・レクリエーション活動について

余暇時間の増大などによるライフスタイルの変化に伴い、老若男女を問わず、健康・体力づくりに対する関心とともに、多種多様なスポーツ・レクリエーション活動や広範なスポーツイベントへの市民の参加要求はますます高まっています。

市民意識調査によると、今後充実が必要な施設として、「健康増進・保健施設」や「スポーツ施設・広場・公園」が上位となっています。

また、今後参加してみたい活動としては、「健康づくりやスポーツ・レクリエーション活動」が最も多い回答となりました。

上尾市スポーツ都市宣言の趣旨を踏まえ、市民一人一人が生涯にわたってスポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会と場の提供とともに、これらスポーツ・レクリエーション活動を支える指導者の育成など、地域に根差した生涯スポーツの推進体制を確立していくことが求められています。



#### 4 上尾市における教育の基本的考え方

##### (1) 基本理念

上尾市教育振興基本計画では、本市の教育について、おおむね10年先を見通した基本理念を「夢・感動教育 あげお」とします。

## 「夢・感動教育 あげお」

**夢** . . . . . 知・徳・体の調和がとれ、夢や目標・志を持って自己実現を目指す、変化の時代をたくましく生き抜く自立した人間を育成する教育を実践します。

**感動** . . . . . 人と人とのつながりや学校・家庭・地域のつながりの輪を広げ、一体となつて、共に生きることの素晴らしさ、尊さを享受し、感動する心を大切にする教育を実践します。

## (2) 基本方針

基本理念を踏まえて、施策を実施していくにあたっては、次の3つの基本方針で取り組みます。

### ◆生きる力をはぐくむ

新しい学習指導要領が、小学校では平成23年度から、また、中学校では平成24年度から全面実施されます。この中においても、子どもたちの「生きる力」をはぐくむという理念が引き継がれています。

子どもたちを取り巻く社会や環境が激変する時代にあっては、個性を尊重するとともに能力を伸ばし、知・徳・体の調和を図りつつ、公共の精神、他者を思いやる気持ちや感謝する心などを尊ぶ社会の一員として、たくましく自立するための生きる力をはぐくむことが重要です。

### ◆生きる喜びをはぐくむ

多くの市民が、自己の充実・啓発や生活の質向上のため、スポーツや文化芸術活動など多様な学習機会を求めています。

市民一人一人が、いつでも、どこでも学べる環境を整え、誰もが生涯にわたって自己実現が可能な社会、笑顔いっぱいの社会の実現を目指し、生きる喜びをはぐくむことが重要です。

### ◆絆をはぐくむ

今日の様々な教育課題を解決するためには、学校や家庭、地域住民、行政はもとより、企業や大学、関係団体やNPOなど社会全体が連携・協働して一体となって取り組むことが必要です。

また、社会全体で連携・協働して教育に取り組むことは、地域学習や体験活動の充実など教育の質を向上させることにもつながります。

教育の振興を図り、郷土愛に満ちた次世代の人づくりやより良い社会づくりのためには、市民一人一人が教育に対する関心を高め、主体的に教育に参画し、すべての市民の絆をはぐくむことが重要です。

### (3) 基本目標

本計画の基本理念及び基本方針を踏まえて、今後5年間（平成23年度～平成27年度）に取り組む教育行政の7つの基本目標を示します。

#### I 確かな学力と自立する力の育成

創意工夫を生かして子どもたちの確かな学力を育成するとともに、社会や環境の変化に主体的に対応できる自立する力を育成します。

#### II 豊かな心と健やかな体の育成

公共の精神、他者を思いやる気持ちや感謝する心など子どもたちの豊かな心をはぐくむとともに、いじめや不登校、非行・問題行動の防止などの課題に取り組みます。

また、健康の保持・増進や体力向上などにより、健やかな体を育成します。

#### III 安心・安全で質の高い学校教育の推進

子どもたちの教育環境を整備・充実するとともに、教職員の資質向上を図り、質の高い学校教育を推進します。

また、子どもたちを災害・犯罪から守るための安全対策を講じます。

#### IV 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

社会全体で教育に取り組む気運を高め、学校応援団など、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進します。

#### V 生涯にわたる豊かな学びのサポート

自己啓発や生活の充実のための学びの環境を整え、生涯にわたる自己実現をサポートします。

#### VI 文化芸術の創造と文化財の保護

多様な文化芸術活動を支援するとともに、貴重な文化財の保存・活用に取り組めます。

#### VII 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

生涯にわたり心身ともに健康で活力に満ちた生活を営むため、スポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会と場の提供に取り組めます。